

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2015 年 6 月 26 日提出

氏名	山口 智之
所属	人獣共通感染症リサーチセンター バイオリソース部門
学年	博士課程 3 年
出張先	長崎大学
出張期間	2015 年 6 月 7 日 ～ 2015 年 6 月 9 日
目的	長崎大学におけるリーディングプログラム活動の見学 およびプログラム間学生交流

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

本年 2 月に、リーディングプログラム間の交流を目的として、長崎大学の“「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」の学生との交流会が本研究科にて催された。この来校を受け、今回は報告者を含め本研究科から 5 名の博士課程学生が教職員とともに長崎大学・坂本キャンパスを訪問した。「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」の活動や同キャンパス内の施設の見学、同プログラムの博士課程学生との合同研究発表会および交流会に参加した。

長崎大学のリーディングプログラムについての説明

報告者らが長崎大学坂本キャンパスに到着しコミュニケーションスキルクラス(後述)が始まるまでの間、会議室にて原虫学分野の金子修先生から長崎大学のプログラムについてご説明いただいた。その際、本研究科からの参加者からの質問にも快くお答えいただき、説明の過程で熱帯医学研究所と長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、およびそれらの相互関係についてもお話を伺うことができた。

コミュニケーションスキルクラスの体験

「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」で行われているコミュニケーションスキルクラスに参加した。このクラスは英会話のスキル向上を目指すものであるため、ここでの会話は全て英語であった。

当日のクラスでは、北海道大学からの学生が来ているとのことから、まず自己紹介を行い、その後は、



本研究科の学生 5 人がそれぞれ別のグループにわかれ、与えられたテーマについてグループ内で話し合う形式で進行した。当日はキャリアパスについてのテーマが与えられ、「課程修了後はどうするつもりであるのか」や「希望の進路を進むためには必要な条件は何か」など両プログラム学生が取り組める課題が出された。どのテーマに対しても、各グループで意欲的に会話が繰り広げられていたのが印象的であった。

施設見学

長崎大学坂本キャンパス内の施設・研究室を見学した。

熱帯医学研究所内では原虫学分野、ウイルス学分野、新興感染症分野の 3 か所の研究室を訪問した。各研究室の先生がたに直接ご案内いただき行われている研究や、同研究所で保有する機器についてご説明いただいた。

また、バイオセーフティレベル 3 のエリア内で分子イメージングが出来る施設として国内で唯一であるアイソトープ実験施設も見学することができた。実際に動作している様子は見られなかったが、モニターを通し施設内の各部屋を見ながら機器について丁寧にご説明いただいた。

熱帯医学ミュージアムでは、寄生虫、細菌、ウイルスによる各熱帯病に関するパネルや、病原媒介昆虫などの標本や映像資料の展示を見学した。各区分に十分な展示スペースと解りやすい説明があり、熱帯医学ミュージアムが博物館・資料室としての情報発信の場である様子が解けると同時に、長崎大学が熱帯病への取り組みに甚大な力を注いでいることが理解できた。



合同研究発表会および交流会への参加

本研究科からの博士課程学生 4 名と長崎大学の学生 2 名がそれぞれ自身の研究について発表を行い、両大学の学生がお互いの発表について討議した。このほか、2 月の来校時に行った合同リーディングプログラムで長崎大学のプログラム紹介の時間を設けたことを受け、本研究科の「One Health に貢献する獣医科学グローバルリーダー育成プログラム」



の活動についての紹介を報告者が担当し発表した。このプログラム紹介にも質疑応答の時間が用意されており、修了要件や人獣共通感染症対策専門家養成コースについての質問があったほか、本研究科で月毎に行われているリーディングプログレスについての質問を受けた。

合同研究発表会に続いて催された交流会では、長崎大学の学生と本研究科の学生が互いの学生生活や研究について情報交換を行った。長崎大学のプログラム下の国際色豊かな学生たちと終始和やかに話し合うことができ、今後も両プログラム間の交流が続くことを望む声が多く聞かれた。

活動を通して

今回の訪問では、目的であったプログラム間の学生交流のほか、長崎大学のプログラムのユニークな点を見学または体験することができたと同時に、この訪問は本研究科のプログラムの特徴を改めて考える良い機会にもなった。本研究科では実施中のリーディングプログラムとの比較対象となる課程が並行していないためか、リーディングプログラムであるからできる活動についての認識が今ひとつ明確でなかった。今後の学生生活を過ごすにあたり、与えられる機会を最大限に活用しようとの意識を再確認出来たことも大きな収穫であった。

最後に、今回終始快くご対応いただいた長崎大学の先生方・学生に心から感謝を申し上げます。

指導教員確認欄	所属・職・氏名： バイオリソース部門・教授 鈴木 定彦 印
---------	--

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp